

第1・3日曜掲載
kirariawa@topics.or.jp

きらり阿波女

聞こえない10代・20代の#MeToo

性暴力やセクハラの問題を考えるイベント「女性がつながって創る、性暴力のない社会」が11日、徳島市のヒューマンワークびあ徳島で開かれた。全国キャンペーン「#MeToo あなたはひとりじゃない」の一環で、徳島実行委の主催。約50人が、女性支援に携わる人たちによる講演やパネルトークに耳を傾けた。その中から、「全国よりそいホットライン」の遠藤智子事務局長による報告「相談から見える、性被害の実態と支援の現在」の要旨を紹介する。(木下真寿美)

よりそいホットライン 遠藤事務局長訴え

徳島市

ホットラインは2011年、厚生労働省の補助金を受けてスタートした。あらゆる相談を24時間365日受け付けていて、1日3万本の電話がかかってくる。電話が主たるコミュニケーションツールになっている40代からの相談が中心。17年度は、DVなどに悩む女性向けの回線に55万件の電話がかかり、加えて若年女性から1万5千件の電話が寄せられた。女性相談者の4.4人に1人が性暴力の被害に遭っている。性暴力の相談のうち5割をレイプ、家庭内での性的虐待が占める。

レイプ被害は若年女性に集中している。内閣府による「男女間暴力調査 17年度版」では、レイプ被害女性に被害に遭った時期を尋ねると、52.5%は20代、39%は19歳までと回答している。研究者の内山純子さん(元目白大教授)の研究では、加害者は「おとなしそう」「届け出ないだろう」という理由でターゲットを選ぶ傾向が分かっている。

つまり、ものを知らず、弁護士らにつながる人脈もない若年層が狙われているのではないかと。「娘なら届け出ないはず」と家庭内の

性的虐待も起きています。約6割が10、20代。相談する女子学生が被害者の10人に1人以上いる。一方で「泊めてあげが性暴力に遭っている」と彼女たちにメッセンジャーを送ったり、被害相談の割合が大きくなり、Twitterに書き込んで、電話相談では出ていない若年層の被害者。10代の人たちは、SNS相談を通じてこれが性被害であると認識していないのでは

SNS(LINE)で相談を受ける「よりそいチャット」も手掛けている。

加害者がターゲットにする、最たる層が(自身の)子どもではないのか、というのが

神奈川県座間市の私の仮説。11年からこの仕事をしてきて、毎年相談票を3千枚から4千枚読んでいる。1人が被害の自宅に誘われ、殺害された。SNSでの相談業務はこの事件を受けて始めたが、スタートして分かったのは、電話相談ができない状況が多すぎる

約6割が10、20代。相談する女子学生が被害者の10人に1人以上いる。一方で「泊めてあげが性暴力に遭っている」と彼女たちにメッセンジャーを送ったり、被害相談の割合が大きくなり、Twitterに書き込んで、電話相談では出ていない若年層の被害者。10代の人たちは、SNS相談を通じてこれが性被害であると認識していないのでは

若年女性の性被害 注目を



「若年女性の性被害に目を向けて」と訴える遠藤事務局長(徳島市ヒューマンワーク)

10、20代は固定電話の番号を持っていない。格安スマホを使用すると被害が見えにくい、携帯の電話番号自体がない子もいる。彼女たちにとっては音声通話よりも、テキスト(文字)によるコミュニケーションが日常になっている。

電話相談は40代が主だが、SNS相談では「3000円」として、インターネット上では性が金銭や1泊、1食と等価交換で

今、(性被害を告発する) #MeToo運動はある。しかし、若年者は語らない。支援者のほとんどはSNSを使わないけれど、その中で生息している女の子たちがたくさんいる。私たちが(支援者)の手は、そこに届いていない。届かせたい。

今、性的虐待や若年者の性被害に注目し、それをなくしていくことが必要ならば、日本社会の屋台骨は壊れたままになると思う。

誰にも相談できない悩みを
よりそいチャット

LINEで相談

WEBで相談

「よりそいチャット」のウェブサイトを体験した被害者について

体験談寄せてください

徳島新聞では、性暴力、語る範囲で内容力について考える企画やご意見を寄せてくださる方を募集しています。知さい。男女は問わず、漢やセクハラ、パート実名を書いたくない。必要ありません。送

リレーコラム キオクのキョク

高田 友季子



海陽町 催中の、た企画展 世代の違 の、海外 がずらり これま した。記 つかある ボーラン よく覚え ヴィッツ 収容所の た。子ど フランク ら、いつ 思ってい も、最後 抜いたと れていた 2月の 雪でぬか の日本人 剛氏の案 歩いた。 すぐに奪 列り取ら だが展示 が当時の 群や、証

編集後記

「40代、50代、60代の#MeTooの語りではなく、今だに被害のただ中にある人たちが #MeTooを語るよう」「これに、受け止められるようにならない。よりそいホットライン事務局長の遠藤智子さんはそう話し、若年